

# レコード軽術

2017  
4.1  
No.58

## Artist of the Month

媚池百合子

埋めたて地の持つ  
深い闇と抗争の歴史を  
これでもかとホールに解き放つ  
緻密なる猛女の凄み



[特集]

独裁者たちの

「ラスト・インタビュ」  
— 音盤上の“最後のあがき” —

古田秀和「之も楽しむ者に如かず」



とじ込み

# マッキー、ホワイトハウスに進出



ヴァッカさんが役員を務めているトランプ  
アーツの極東部門のチーフに就任しました。  
ヴァッカさんの付度あつてのことです。



アメリカのオーディオ製品の輸出の  
促進に努めるほか、閉鎖的な日本の  
大麻市場の解放を働きかけます。



# 低音の響きをグレードアップ 籠形スピーカー台新発売



床材に伝わる有害な振動をシャットアウト。  
腰のある低音が音楽をさらに引き立てます。

スロットに特製コンニャクを差し込むとさらに効果アップ。  
それでも物足りない方には特製レンガ、さらに特製座布団をどうぞ。

特製コンニャク ¥1,000,000  
特製レンガ ¥10,000,000  
特製座布団 ¥100,000,000

## 瑞穂音響



東京都もオペラハウスを持つべきか否か議論  
が高まる中、新オペラハウス館長となる媚池  
百合子東京都文化局長の記者会見があった。

媚池 今日皆様お集まり下さいましてありがとうございます。始めに、とうにご存じかと思いますが、オペラハウスの必要性について説明させていただきます。いま首都圏で本格的なオペラ上演ができるのはわずかしかなりません。いや、本格的なオペラ上演ができるのは初台にある新国立劇場だけと言っても過言ではありません。都の施設では東京文化会館や東京芸術劇場でもできないことはありませんし、上演の実績もあります。舞台設備の面から多大の制約があります。産業・文化の両面に渡って世界有数の大都市である東京に、レガシーとして残せるオペラハウスを建造したい、それが長年の夢でした。これまで紆余曲折がありました。建設に向けて忌憚のないご意見

見を伺いたく存じます。

**記者** オペラハウスの必要性までは受け入れるとして、こうして記者会見を開きだしてから10か月が経過、建設用地が決まらないうどころか、候補地が次から次へと増えていく。責任者としてどう思われますか。

**媚池** 改装費の点で有明や戸田は難があることがわかって来ましたし、豊洲は土壌汚染。これまでの経緯を洗い出して都民ファーストの立場で最善の決定をたく思ってます。

**記者** これまでの経緯をたどることによって不透明な決定が利権がらみで行われたのではないかと都民の前に疑惑を明るみに出したのは局長の業績ですよ。でもね、局長、過去をほじってばかりでは進まない。

もう新たな選択肢はないでしょう、いつ方針を決めますか。

**媚池** 現状はまさに産みの苦しみと言った状況でございます。もう少しご猶予をいただきたく存じます。

**記者** 産みの苦しみとおっしゃいましたが、「都民ファーストの集い」はすぐにできなかったんじゃないですか。土地を決めるのはそんなに難しいですか。

**媚池** 正直申しまして、私はもの作りの前に組織ありと思ってます。正直申しまして、新進党や日本新党の設立のためにやってきたことが今度も役立つと思ってます。

**記者** どちらの党も今は消えました。「都民ファーストの集い」も局長個人の取り巻きとして使い捨てされるんじゃないかと心配

してますよ。

**媚池** 東京都は中規模の国家に匹敵する経済規模を持っています。そこで「都民ファーストの集い」が支持を得れば国政にも大きな影響力を持てるに違いありません。

**記者** でも、あなた、今も自民党员でしょ。

「都民ファーストの集い」がうまく行かなかったらつぶして自民党に戻り、防衛大臣に帰り咲くこともあり得ると踏んできますが。

**媚池** どんな立場におかれても、都民ファーストを貫くことには変わりありません。都には教育関係でもやりたいことがたくさんあります。

**記者** じゃあ、百合の花小学院でも作って教育勅語を教えるんですか、日本会議のメンバーとしてふさわしいと思いますよ。

**媚池** そんなオペラがあったら上演しますよ。今日はこれでおしまいにします。

**媚池文化局長**はかつてない険しい顔で会場から出て行った。





古田秀和

Hidetaka FURUTA

之も楽しむ者に如かず

●アダージョ ムヒカ

Adagio Mujica



訪れが遅かった春を埋め合わせするようにここ二三日急に気温が上がリ、桜の開花も進んだ。花のもと、ふざけあう子どもたちの歓声が懐かしい音楽に出会ったように響く。我々は今年の開花は早いとか、梅がまだ咲いているとか、経験との比較が感想に入ったりするけれど、幼い子にとってはすべてが新しい。次から次へと変化する季節の移ろいに幸福な未来の予感を当然のこととして重ね合わせているに違いない。

幸福な未来の予感という語句を使った忘れられない文がある。一部を紹介する。

近頃はことあるたびに自分が死ぬときが来たと感じさせられます。今やまさに終わろうとしているのです。私は自分の才能を十分使わないうちに死んでしまうのです。それにしても人生は美しかったし、私の仕事は幸福な未来の予感につつまれて始まりました。

これは、モーツァルトが世を去る三カ月前、絶筆となる「レクイエム」の作曲中に書いたとされ、後に偽作と判明した宛先なしの手紙の文である。モーツァルトファンならでの早世を惜しむ気持ちにあふれていて、偽作であることが惜しいほどの美しい文章であることには異論はないだろう。

中でも、「幸福な未来の予感」という語句にはモーツアルトの若い頃のはつらつとした輝きを持つ作品群の特徴が端的に表現されているではあるまいか。しかし、世を去る1791年に作曲されたクラリネット協奏曲やピアノ協奏曲27番では表現の対象はこの世の雑事を超えた美の世界へと移る。「幸福な未来の予感」は「天上への想い」となる。

人間の記憶の仕組みはよく分かってないし、解明尽くされることはないだろうが——実はそう願いたくもあるのだが——予感なるもの、自らの経験と実績でこの先起こる事柄を論理的に予測した結果に基づいていると言いつつてよいのだろうか。「幸福な未来の予感」や「天上への想い」はどのようにして生まれるのだろうか。

臨死体験なるものが少しは研究されている。病気や怪我で苦痛の極致にあるときでも最後には脳にある物質が供給されて苦痛が取り去られ、安らかな表情で死を迎えるのだという。このとき、脳に供給される物質は予感として「天上への想い」をも促すのだろうか。

それは前にも述べたように、解明尽くされることはなさそうだが。

個々の一生は自分の意志では逆らえない運命のようなものによって決まっているのなら、日常の繰り返しはいつか終わらされる。忍び寄るこの世のものでない世界の予感。モーツアルトに限らず芸術家のラストメッセージはかくなる予感から生まれたものかも知れない。

芸術は作者亡き後も残る。作者の名も小惑星の名前になれば人類よりも、もしかしたら地球よりも後まで存続する。ただ、政治家や宗教家の名前は死後百年以上経ってからでないかと命名できない。国際天文学連合の規則だ。何百億年という時間スケールで空を眺めている天文学者の考え方に救われる。星になれる政治家は何人いるだろうか。

本稿は故・古田秀和氏と親しかった某氏から遺稿と提供いただきました。感謝に堪えません。(編集部)

新譜  
月評  
2017  
4.1

交響曲 金虚建志  
管弦楽曲 藤田由々  
ビデオ・ディスク 朝墓公三

4月号新譜月評

■マーラー:交響曲第六番「悲劇的」

安倍三振指揮

■リムスキー=コルサコフ:交響組曲

「シェエラザード」

スティーブン・バカン指揮

■ヴェルディ:歌劇「オテロ」

安倍三振指揮

この3月に行われた定期演奏会のライヴ録音である。評者も客席で鑑賞していた。断っておくが、この演奏会のチケットは自費で払っていて、演奏評の執筆依頼が出版社から来たのはその後、ディスクの発売が決まってからであり、永田町管



■ マーラー：交響曲第六番

「悲劇的」

安倍三振 指揮 永田町  
管弦楽団

弦楽団とは直接の接点はない。

ところが、執筆依頼の翌日に永田町管弦楽団から封書でディスクの内容はライヴ録音に修正を加えたものであるが音楽の本質は変わらない旨の文書が届いた。こんなものを送りつける意図は何だろう。

実演があまりにも傷が多かったので、プロや他公演からいいとこ取りをして商品にすることはよく行われていることで、それ自体をとにかく言う気はない。そもそもディスクのみ聞いて批評する評論家相手には修正箇所を示すなど必要ない。加工されたライヴ録音であることが明らかになれば藪蛇となる。

そう考えると、あの演奏会場に私が来ていたことを知っている人間が評論に余計なことを書かないよう牽制するために、先手を打って文書を出したのではないか。執筆依頼は電子メールであったにもかかわらず、翌日には評論内容に釘を刺すような封書が届く。出版社ばかりか私まで監視されているようで気味が悪い。

さて、演奏であるが、単刀直入に言えばこのオケはマーラーをこなす実力はなない。弦楽器群は指揮者の一強体制が長くなったのでアンサンブルに関しては一応の水準に達しているが、ソロ楽器がひどい。ディスクではみごと修正されているが、実演ではあらぬ箇所飛び出したり、強弱のバランスお構いなしの自己陶醉の演奏が耳に付いた。こんなレベルの団員を採用した楽団、中でも指揮者に責任はないのだろうか。

近年の永田町管弦楽団の演奏は質の低下が著しい。マーラーのこの交響曲に付けられた副題は「悲劇的」を通り越して「壊滅的」に近い。破壊のハンマーは初稿時と同じ五回必要だ。

マンハッタン・ナショナル交響楽団は単にナショナル交響楽団と呼ばれることが多く、アメリカ財界に関するイベントにも関わることの多いアメリカの顔とも言える楽団である。常任指揮者はショーン・マクドナルド花札氏だが、東欧諸国



■リムスキー=コルサコフ：  
交響組曲「シェエラザード」

スティーブン・バカン  
指揮 マンハッタン・ナ  
ショナル交響楽団

への演奏旅行に先立って行われたこの録音ではバカン氏がタクトを振っている。マクドナルド花札氏が公演に同行する際の治安上の問題と公式には発表されているが、実態は彼の経歴詐称が原因らしい。演奏はエネルギーで壮大。バカン

はリムスキー＝コルサコフと同様、海軍勤務の経験があり、第一章「海とシンドバッドの航海」では大波のようにうねる響きに取りこまれる。他方、第三章「若き王子と王女」では繊細な表現も聞かせる。圧巻は終曲の「バグダッドの祭り」。喧噪の表現がすさまじい。原曲にない打楽器や効果音が使われているようだ。

この異国情緒にあふれた名作をメイン・プログラムに掲げて東欧ツアーに旅立ったのだが、道中はトラブル続出。楽団を離れ、雲隠れする団員が後を絶たなかった。亡命ではない。

消えた団員の顔ぶれを見ると出身がアラブの国に関係していたり、イスラム教徒だったりする。アメリカ国外に出たも

のの入国制限に引っかかり帰国できなくなることを危惧したのではないかといわれている。アメリカの楽団で働いていたのに、帰れないとは何という仕打ちだろう。

アメリカは移民により発展した国である。伝統あるオーケストラのメンバーを見るがよい。特に弦楽器、東洋系が半数近くを占める楽団もある。日米の貿易問題がこじれると日本人奏者もあおりをうけかねない。

彼らを冷遇・排斥したらアメリカ文化自体がおかしくなる。白人優先主義のバカンのねらいは足元から崩れつつある。解任されたようだ。

ヴェルディの名作オペラである。原作はシエクスピアの戯曲にて、わざわざあらすじを解説するまでもないが、配役の紹介を兼ねて述べておこう。

長期政権を続けるオテロ（安倍珍三）のもと、ヤーゴ（石馬茂）は不正な手段



■ヴェルディ：歌劇「オテロ」

安倍珍三（T） 安倍呆江（S）  
過誤池泰典（T） 石馬茂（B）  
安倍三振 指揮 永田町管弦  
楽団

を使ってでも権力中枢に近づきたいと焦っているカッシオ（過誤池泰典）が目障りで仕方ない。ヤーゴは何度も次期総督の地位をねらいながら果たせず、いわば窓際で夢にすがるのがのみの日々を送っているのだった。

そこでヤーゴはカッシオを使ったオテロ打倒の策略を練る。自身の事業のためなら藁をもつかみたいと思っているカッシオに、オテロの妻であるデズデモーナ（安倍呆江）に要望を話せば総督の妻ゆえカッシオに有利な政策を付度してもらえるに違いないと言う。始めは計画は成功したかに見えたが、カッシオのやり過ぎとデズデモーナの脇の甘さで事態は大混乱「何であんな奴と付き合う」とオテロはデズデモーナを責め不貞を疑うまでになる。最後は嫉妬心に燃えたオテロがデズデモーナを絞め殺し自らも命を絶つて幕となる。

最大の問題はデズデモーナ。可憐で無邪気というキャラクターは十分發揮され

ているが、この人には責任感に伴う迷いや悩みなどあるのだろうか。何でもカッシオのせいにして済まされる状況ではないのに妙に浮き上がっている。演出家の指導力も問われよう。

デズデモーナに比べればオテロはまだまし。うろたえたり、過剰に反応したり、終盤になるにしたがって錯乱状態になっていく有様が生々しい。

圧巻はラストシーンに現れる勝ち誇つたようなヤーゴの高笑い。ヤーゴの策略は大成功、オテロ総督亡き後はこの男が継ぐのだろう。この国はどう進んでいくのか、戯曲で描かれた世界が妙に現実味を帯びて迫ってきた。

# 原発事業はもうこりこり



オーレックスで知られた親会社の東芝やウエスタン・エレクトリックの流れを汲む新ブランド **Westrex** で地道にやり直します。



## 西芝音響

文部科学省・新指導要領に合格



1巻と2巻  
4枚組CD

日本の伝統を重んじた道徳・音楽  
両用教材初登場



推薦の言葉 籠鳥醇子氏  
安倍友学園の子どもでも  
弾ける曲が入っています。

**大東亜  
レコード**

クロスポイント

# CROSSPOINT

管野充 × 小森よしのり



音楽とオーディオ

**管野** アメリカの新興オーディオメーカーであるトランプ社のCDプレーヤーを入手、試してみました。

**小森** あそこの社長、何でも金ピカが好きなようです。で、音質はどうでしょう。

**管野** それが、不思議なんです。一口で言うとディスクのえり好みが激しくて。たとえばこのモーツアルトの交響曲、グラモフォン・レーベルですが、アメリカプレスの方が圧倒的に鮮明。他社のプレーヤーではこんな差が出ません。かけてみましょう。  
**小森** なるほど。

**管野** さらに変なのは、アメリカプレスでも、これ、ラヴェルのピアノ協奏曲とガーシュインのラプソディー・イン・ブルーが

入っているCDですが、ガーシュインになると急に音がよくなる。編成が違うから録音条件も違って当たり前と思うでしょ、ところが他のプレーヤーではそんなことは起こらない。

小森 ガーシュインのトラックに入ると「チツ」という音が聞こえませんでした？もう一度聞きましょう。

管野 なるほど。オシロスコープで波形を見てみましょうか。

小森 おやー、これはどこかで見た波形です。ほら。

管野 なんと、トランプ社の社長のサインそっくりではないですか。そうか、この信号をトラックの頭にこっそり入れて再生系のモードを変え、結果的にアメリカの作曲

家や演奏家に高評価がでるようにプレーヤーの動作に細工しているのじゃないだろうか。

小森 じゃあ、ドヴォルザークの新世界交響曲はどうだろう。

管野 こりゃ駄目だ。黒人霊歌を使っているのもドヴォルザークはアメリカ人じゃないからだ。アメリカ第一主義は徹底しているなあ。

小森 こんなことをやって得なことないと思えますがねえ。



モーツァルト 歌劇

# 「後宮からの誘拐」



北の国へ連れ去られた若き女性を救出するために婚約者が大活躍。新演出は実話をもとにクアラルンプール空港を借りて上演。現実とドラマが交錯する愛とスリルの一部始終をご堪能下さい。

قي حارج قويلم ع ءوض لچس ايزيلام عرف

레코드 가볍게 술 말레이시아 지부

# 不正行為の影にゴミあり

今や廃棄物は政治屋の重要アイテムです

～ 最強力・隠し球は放射能ゴミ ～



あなたが処分したCDが知らぬ間に腹黒政治屋の手に渡り、  
日本を揺るがす問題に発展したらどうしますか？

二酸化炭素問題、エネルギー問題に環境浄化と不要CDの処  
理に全面的に取り組んできた我が社におまかせ下さい。

不要CD5枚で音楽ダウンロード券を差し上げます

当社では廃棄物の行方の追跡システムを完備しています

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

森友学園とは無関係です

有効期限 2017.4.1

# レコード軽術常備店



クラシック音楽を聴きながら

語らいと酒悦のひとつき

〒 167-0054 杉並区松庵 3-38-3

ニューダイヤハイム B 1 南号

☎ 03-3334-4161 (日曜休み)



## 広告募集

パロディ・本物問わず  
2D (紙) も 3D (立体) も  
楽しいものを送りだそう

まずはお見積もりを!!

原稿はネット受付も OK

家内工業

## 編集後記

この三月はトランプ大統領と北朝鮮の話題だけでも誌面が一杯になるほどだったのに加え、森友学園問題などが浮上し、地下鉄サリン事件があった95年以来の忙しさ。お届けが遅れてしまいました。秋の号を出す頃までに世界に新たな紛争が起こらなければよいのですが。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを  
<http://record-keijutsu.music.coocan.jp>  
で見ることができます (URLは昨年秋に変更になりました)。

レコード軽術 '17年春号 (通巻第58号)

2017.4.1 第1刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町 539-119

TEL (044) 989-8510

s\_yanagawa@jcom.home.ne.jp

印刷・製本 家内工業

